

地神裕史, 斉藤秀之(編集)

上肢の理学療法

局所機能と全身運動を結びつけるインタラクティブ・アプローチ

評者 大西秀明

新潟医療福祉大学医療技術学部

本書は数多くある理学療法関連書籍の中でも、上肢機能に対する理学療法に特化したものであり、「神経生理学(第1章, 21頁)」「上肢の機能解剖学(第2章, 21頁)」「上肢の徒手検査法(第3章, 42頁)」「上肢機能評価に活かす脳画像の読み方(第4章, 15頁)」「各疾患への理学療法アプローチ(第5章, 251頁)」の全5章から構成されている。

本書の特徴の一つは、各疾患に対する理学療法アプローチの前段として、100頁強の紙面を割いて、上肢機能を適切に評価・治療するために必要な「神経生理学」や「機能解剖学」、「基本的な徒手検査手法」などが丁寧に記載されているところである。また、「上肢機能評価に活かすため脳画像の読み方」は他の関連書籍ではみない特徴的な章である。二つ目の特徴は、「各疾患への理学療法アプローチ」において整形外科疾患(10疾患)だけでなく、中枢神経疾患(5疾患)や末梢神経疾患(5疾患)の上肢機能に対する理学療法も含まれていることである。本書のタイトルから整形外科疾患に対する理学療法をイメージしたが、脳卒中片麻痺やパーキンソン症候群等に対する理学療法など、幅広く上肢機能障害に対する理学療法が掲載されている点も嬉しいところである。三つ目の特徴は、検査・治療場面の写真や、わかりやすいイラスト、X線写真などが数多く盛り込まれている点である。文字だけではイメージできない各種検査法や、画像診断に欠かせないX線写真の特徴など、理学療法を遂行するためには欠かせない情報が網羅されている。

四つ目の特徴(本書の最も大きな特徴)は、「各疾患への理学療法アプローチ」の章において、各疾患の病態や検査・評価内容、治療手技の紹介だけでなく、「機能診断のフローチャート」が明示されている点と、各疾患の代表的な「症例」の節が設けられ、一連の理学療法の流れが理解しやすいように工夫さ

れている点である。特に、この「症例」の節においては、アプローチのポイントとサマリーが最初に紹介された後、「局所機能障害に対するアプローチ」と「局所機能と全身運動を結びつけるインタラクティブ・アプローチ」が必ず記載されている。これは他の関連書籍では類をみないアイデアであり、局所の機能障害と全身運動とを関連させ、広い視野で機能障害を理解することの重要性に気づかせてくれる内容になっている。

本書は、学生や経験の少ない理学療法士だけでなく、経験豊富な理学療法士にとっても活用できる書籍である。上肢機能障害に対して理学療法を行うにあたり、ぜひお薦めしたい。



B5・360頁
定価：本体 5,600円＋税
三輪書店刊, 2016